

相模原看護専門学校令和6年度自己点検・自己評価及び 学校関係者評価の結果について

本校では、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に取り組むため、自己点検・自己評価及び学校関係者評価を行い、評価結果についてお知らせしています。令和6年度の評価結果がまとまりましたので、次のとおり報告します。

令和7年9月1日

公益財団法人 相模原健康福祉財団
相模原看護専門学校
校長 梶本 幸

1 自己点検・自己評価

(1) 評価方法等

令和6年度(令和6年4月～7年3月)の学校教育活動について、教職員による担当者評価及び自己点検・自己評価委員会により評価した。

(2) 担当者評価

令和7年3月に実施
校長を含む全教職員

(3) 自己点検・自己評価委員会

開催日 令和7年5月19日(月)、6月9日(月)、6月25日(水)、7月9日(水)
出席者 校長、事務局長、看護学科長、学科長補佐2名、事務局次長

(4) 評価項目

「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」における9カテゴリー・125項目を踏まえ、学校独自に設定した10区分・30項目により評価を行った。

(5) 評価基準

30項目について、次の4段階で評価
十分に満たしている：4 満たしている：3 改善の余地がある：2 改善が必要：1

2 学校関係者評価

(1) 評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、令和6年度自己点検・自己評価結果について事務局から説明し、委員から評価結果に対する意見や提言をいただいた。

(2) 学校関係者評価委員会

開催日等 令和7年7月16日(水) 午後6時～7時20分 相模原看護専門学校で開催
出席者 評価委員(5名うち1名書面参加)
阿部 徳子 神奈川県看護協会相模原支部理事、相模原協同病院前看護部長
小林 一裕(委員長) 相模原市病院協会看護部長会長、相模ヶ丘病院看護部長
田口 宣広(副委員長) 相模原市医療政策課主査

森谷 光俊 相模原市病院協会理事、黒河内病院院長
篠崎 正義 相模原市医師会事務局長（書面にて参加）
欠席者 1名
事務局 5名
校長、事務局長、看護学科長、学科長補佐2名

3 評価結果

別紙のとおり

以 上

令和6(2024)年度 自己点検・自己評価の概要

1. 自己点検・自己評価(資料1-1,1-2)

卒業生数は70名、うち18回生は66名(3年間での卒業生82.5%)であった。看護師国家試験は70名中68名(97.1%)が合格した(前年度は81名卒業、79名<97.5%>合格)。市内就職率は68名中65名(95.6%,対前年+8.3)であり、地域に貢献する看護師の育成という本校の理念・目的を十分に果たしたと評価できる。

教員による自己評価については、前年度、個人による評価とした結果、評価項目の解釈にずれが生じ全体的に低い結果となってしまった。そのため今年度は小グループに分かれて評価し、その後教員全員で評価を行い、教員個々の解釈の違いによる影響がでないようにした。結果、全体平均は3.8(対前年+0.6)で、評価項目区分ⅠからⅩまですべて評価基準3「満たしている」以上であった。

各評価項目区分の内訳は資料1-2を参照。全体の約7割(30項目中22項目)が、評価基準4「十分に満たしている」であったが、評価基準3に満たなかった項目は昨年度に続き「Ⅱ学校運営 4組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか」の1項目「2.6」であった。各人の能力を組織力にしていくためには、組織横断的な連携・協働を強化していく必要がある。

詳細については資料1-2に示す。

2. 学生による評価

1) 看護に求められる実践能力と卒業時の到達目標(資料2-1,2-2)

全体平均は4.12(対前年-0.14)であった。Ⅰ群からⅤ群の各平均と全体平均は4.0以上となっており、卒業時の到達目標に到達できているが、全体的に前年度よりも若干低くなっている。この傾向は「ディプロマ・ポリシー到達状況」の評価でもみられ、令和6年度卒業生の自己評価の違いによるものと思われる。

項目別で最も高かったのは「Ⅰ群 ヒューマンケアの基本的な能力 C倫理的な看護実践 7『対象のプライバシーや個人情報を保護することができる』」4.37(対前年-0.37)で、最も低かったのは「Ⅰ群 ヒューマンケアの基本的な能力 A 対象の理解 1『人体の構造と機能について理解できる』」3.74(対前年+0.34)であった。両者とも前年度と同じ項目であった。最も低かった「人体の構造と機能について理解できる」は、唯一前年度よりも0.3以上高くなっており、これは新カリキュラムから「人体の構造と機能Ⅳ」を設定し、看護学の観点から人体を系統だてて理解できるように取り組んできた成果がでてきたと考える。

引き続き看護実践能力の育成・強化に努め、卒業時到達目標が全項目「4」以上となるように取り組んでいきたい。

2) 授業アンケート(資料3-1,3-2,3-3)

ここ数年、授業アンケートの回収率が低く令和5年度は14.3%であったことから、回収率を上げ結果の信頼性を高めるために教員会議で改善策を検討し、令和6年度は授業アンケートへの協力依頼の方法と調査時期を変更して実施したが、あまり効果は見られず全体の回収率は17.2%(対前年+2.9)とわずかな上昇に留まり、信頼性のあるデータと言いつつも状況である。40人以上の回答があった科目は臨地実習を含め92科目中わずか6科目(哲学、人間工学、看護の基本となる技術Ⅰ、看護の基本となる技術Ⅲ、基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習)[前年度5科目]であり、回答が「ゼロ」の科目が3科目(教育学、看護理論、精神看護の基本技術)[前年度なし]、回答が1人~5人以下の科目が30科目[前年度42科目]であった。学年別の回収率では1年生が26.4%(対前年+7.3)と最も高く、2年生が8.5(対前年+0.4)と最も低かった。分野別では臨地実習が29.1%(対前年+8.6)と最も高く、専門分野が12.8%(対前年-0.2)と最も低く、中でも成人看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践の回収率が10%に満たなかった。

結果の信頼性を高め、授業改善の指標にしていくためには、回収率改善に向けての方略が喫緊の課題と考える。アンケートのタイトル、依頼文、質問内容、調査方法、結果のフィードバック等について、全面的に見直しを行い実施していきたい。

3) ディプロマ・ポリシー到達状況(資料4)

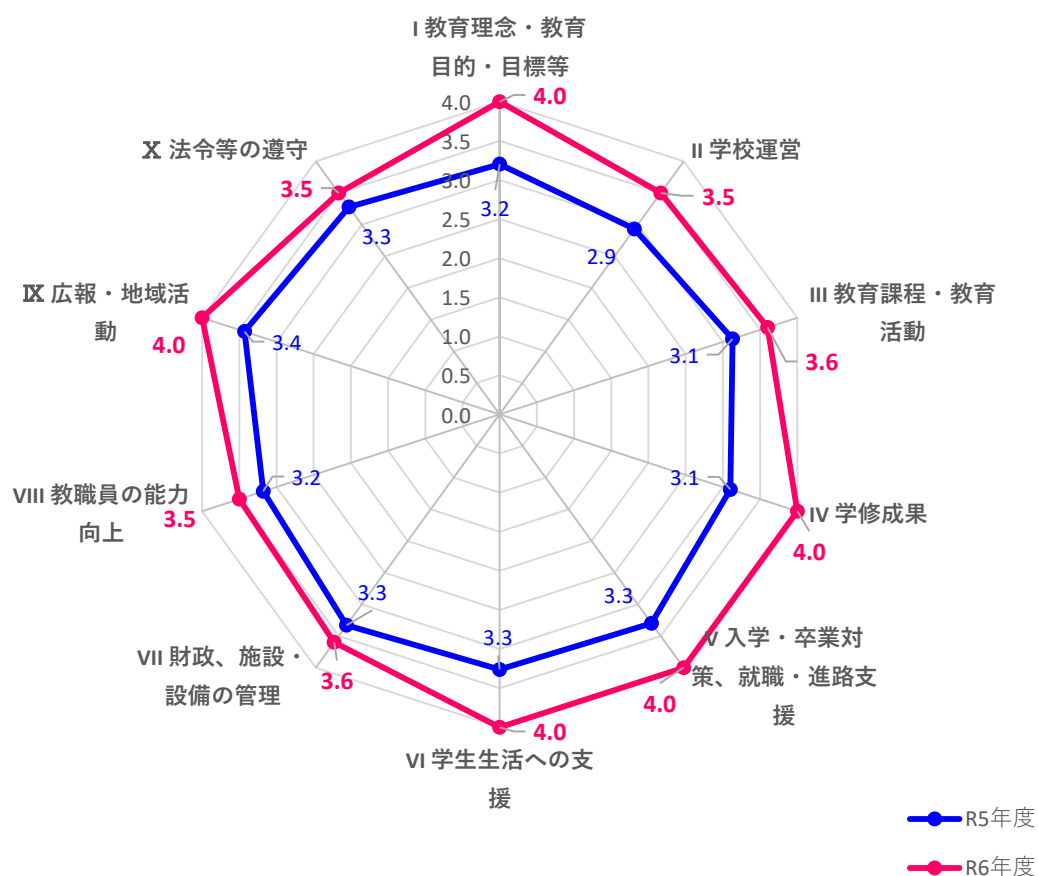
「気づく力」「思考する力」「実践する力」「成長し続ける力」の平均は 4.3（対前年－0.1）で、1 項目を除き、4.0 以上であった。4.0 に到達できなかった項目は「『気づく力』、5. 国内外の社会の変化や保健医療福祉の動向に関心を持ち、医療や看護のニーズに気づくことができる」3.9（対前年－0.3）であった。

卒業時に求められる「気づく力」「思考する力」「実践する力」「成長し続ける力」の目標には概ね到達できたと考えるが、全項目「4」以上となるようにしていきたい。

令和6（2024）年度 自己点検・自己評価（総括表）

評価項目	平均	
	R5年度	R6年度
I 教育理念・教育目的・目標等	3.2	4.0
II 学校運営	2.9	3.5
III 教育課程・教育活動	3.1	3.6
IV 学修成果	3.1	4.0
V 入学・卒業対策、就職・進路支援	3.3	4.0
VI 学生生活への支援	3.3	4.0
VII 財政、施設・設備の管理	3.3	3.6
VIII 教職員の能力向上	3.2	3.5
IX 広報・地域活動	3.4	4.0
X 法令等の遵守	3.3	3.5
平 均	3.2	3.8

4	十分に満たしている
3	満たしている
2	改善の余地がある
1	改善が必要



評価尺度 4：十分に満たしている
3：満たしている
2：改善の余地がある
1：改善が必要

資料1-2

R6年度 自己点検・自己評価（評価項目別）

：評価が3.0未満

区分	番号	評価項目	令和5年度 評価結果	令和6年度 評価結果	評価理由	課題・改善対策
Ⅰ 教育理念・目的・目標等	1	社会のニーズを踏まえた教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーが定められているか。	3.4	4.0	相模原市健康福祉財団の「相模原市民の健康の保持増進に寄与する」目的の実現に向けて、教育理念、教育目的、ディプロマポリシーを定めている。	【課題】 特になし 【改善対策】
	2	教育理念・目的・目標・ディプロマポリシー・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されているか。	3.0	4.0	学校説明会や入学時（入職時）オリエンテーション、入学時の保護者会で説明している。また、HPや学校案内パンフレット、学習ガイダンスに掲載・周知し、いつでも学生が確認できるようにipadの学生専用ドライブにも掲載している。	
Ⅱ 学校運営	3	学校の教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーを実現するための運営方針を策定しているか。	3.0	4.0	財団の中期経営計画、前年度評価、学生のアンケートを基に翌年度の運営方針を策定している。その運営方針に基づき、さらに各プロジェクトチームや係が活動計画を立案し、全教員で協働して実現を目指している。	【課題】 ・組織横断的な協働 【改善対策】 ・何事にも当事者意識を持ち、「自分にできること」を考えて取り組んでいく ・コミュニケーションを細やかにとり、連携・協働が円滑にとれるように努めていく ・担当で決定したことはタイムリーに伝え、他との調整が必要な場合は「全体最適」の視点で協議する
	4	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	2.7	2.6	学校の重点目標及び課題解決に向けて、各プロジェクトチーム、係、学年担任、チューター間で情報を共有し、互いに協力し取り組んでいる。しかし、小規模グループでの活動は比較的円滑であるが、組織だった協働ができていない。共通する取組事項に関して個々のメンバーの当事者意識が薄く、チームとして協働していくために現状から変化する必要性は感じているが、行動変容には時間を要している。	
	5	学校運営の評価が適切に行われているか。	3.2	4.0	年度ごとに各係や領域の評価、自己点検自己評価、学校関係者評価、運営方針の評価を実施している。結果はHPで公開している。	
Ⅲ 教育課程・教育活動	6	教育目標を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3.1	3.0	学生ガイダンス、HP、学校案内に教育目標・ディプロマポリシー・看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標を掲載し、入学オリエンテーション時に説明している。卒業前に学生にアンケートをとり、教育目標に照らし卒業時の到達度を評価・分析しているが、結果について、到達状況を教員間で共有できていない。	【課題】 ・「卒業時到達状況結果」の情報共有の仕方 →結果については教員会議で報告しているが、「到達状況を教員間で共有できていない」と認識している教員がいる。 ・学生による授業評価アンケートの回収率の改善 【改善対策】 ・「卒業時到達状況結果」の情報共有の仕方を工夫する。 ○結果報告だけではなく、意見交換の時間を設ける ・学生による授業評価について全面的に見直し実施する
	7	教育内容は、教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーと一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	3.1	4.0	看護に関わる主要概念と教育理念から教育目的・目標・ディプロマポリシー、教育課程を編成し、各分野・科目の考え方、科目目標、教育内容を策定している。また、教育課程は第5次カリキュラム改正の保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り編成している。	
	8	体系的なカリキュラム運営が行われているか。	3.1	3.1	保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則ってカリキュラムを編成し、学習ガイダンス（シラバス）に各分野の考え方、科目構成を明示している。教育計画、学科進度に沿って時間割を作成し実施している。また、各分野、専門領域毎にカリキュラム評価を行い、教育内容の見直しをしている。計画に基づいたカリキュラム運営と実施・評価、見直し後に再計画しているが、学生による評価結果の反映に課題がある。学生から授業評価アンケートを全科目収集しているが、回収率が低く信頼性のあるデータを得ることができていない。R6年度は依頼方法・調査時期を変更して実施したが、あまり改善が見られなかった。授業評価が形骸化している傾向にあるので、学生の理解・協力が得られるように、説明を丁寧に行い結果については可能な限りタイムリーにフィードバックできるようにしていく必要がある。	
	9	評価について公平性・妥当性が保たれているか。	3.1	4.0	授業科目の評価・単位修得の認定、卒業の認定については、学則・単位認定規程で規定し、学生必携に明示している。また、各科目評価については教育ガイダンス（シラバス）・実習要綱に明示し学生に説明している。実習評価については、評価表に評価基準・評価視点を明示し、結果については教員会議で協議したうえで最終決定している。	
	10	実習時の安全体制が整っているか。	3.3	4.0	実習における「安全対策」については、事故防止、事故発生時の対応、災害発生時の対応、実習における健康管理についてのルールを定め「実習要綱」に記載している。実習打合せ時に実習病院の指導者に説明・周知し、学生には実習オリエンテーションで説明している。	

区分	番号	評価項目	令和5年度 評価結果	令和6年度 評価結果	評価理由	課題・改善対策
Ⅳ 学修成果	11	学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。	3.1	4.0	入学時よりチューター制を導入し、個別の学習相談・支援を行っている。学習低迷者に対しては、苦手科目に関する学習会を企画し、定期的に勉強会を開催している。また、再履修者には国試対策兼試験対策を実施している。卒業年次生に対しては、特別年度内再履修を行い、卒業所要単位を取得できるように支援している。	【課題】 ・看護師国家試験100% 【改善対策】 ・看護師国家試験対策の強化対策の継続 ・学習低迷者への学習支援の継続
	12	国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。	3.1	3.9	国家試験対策プロジェクトチームを作成し、看護師国家試験合格に向けて1年次より年間計画を立て、国家試験対策を行っている。3年次においては、全教員が協力し、臨地実習に関する国家試験対策を行い、国家試験直前の補習講義では業者を入れず、一部の講義を除き学内教員で実施をしている。国家試験対策強化にあたっては、模擬試験実施後、低正答率問題の共有を学生および教員間での共有を行なった。補習して欲しい内容などを学生から募りその内容に関する補習を実施している。	
	13	退学率の低減を図っているか。	3.1	4.0	退学率はここ数年2～3%で推移し大きな変化はみられていないが、学習が継続できるように気になる学生に対し、早期に保護者を含めた面談を実施するなど対策している。各学年チューター制とり、学生が困ったときに窓口になるようしている。精神的に不安定な学生に対しては、学内カウンセラーの紹介や学校医への相談等を行い対応している。	
Ⅴ 入学・卒業対策、就職・進路支援	14	入学応募者確保に努めているか。	3.2	4.0	6月に高等学校の進路指導担当教員を対象にした進路ガイダンスを開催し16校の先生の参加があった。オープンキャンパスは18回開催し、425名の参加があった。R5年度より実施回数を2回増やし16時以降の学校説明会も企画し、希望者が参加し易い状況を整えて開催したが、参加者増にはつながらなかった（対前年－133名）。学校HPでの情報発信の他、業者主催の学校説明会に参加し、進路ガイダンス・学校案内を行い、入学応募者の確保に努めているが、結果は出せていない。R6年度の受験者総数は101名（対前年－37名）68名の入学であったので、受験・入学につながるように工夫しながら実施していく必要がある。	【課題】 ・受験・入学につながるような募集活動 【改善対策】 ・オープンキャンパスの開催時期、内容の見直し ・学生募集広報活動の強化 ○・市内の病院施設で行われる1日看護体験の参加者へ学校案内パンフレット、オープンキャンパス案内配付
	15	就職・進路支援に取り組んでいるか。	3.6	4.0	入学時よりチューター制をとり、個々の学生の進路相談に対応している。また、1階ラウンジに「就職情報」コーナーを設置し、病院からの看護師採用情報、インターンシップのお知らせ等を掲示している。1・2年生を対象に「就職ガイダンス」を開催し、病院施設職員から直接話を聞く場を設けている。3年生に対しては、小論文、面接の練習等にも対応している。	
	16	卒業生への支援を行っているか。	3.2	4.0	学校HPに「卒業生専用ページ」を設け、証明書等の発行手続きや学校図書利用について、同窓会からの連絡等の情報発信を行っている。新卒者に対し毎年5月下旬にホームカミングデイを開催し、継続して働くことができるように支援している。また、実習病院にて卒業生に声をかけ相談にのっている。同窓会の活性化に向けて、同窓会担当教員が同窓会の役員の活動を支援している。	
Ⅵ 学生生活への支援	17	健康管理面、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか。	3.5	4.0	入学時よりチューター制をとり、カウンセラーによる学生相談室を週1回開室するなど、個別に相談しやすい環境を整えている。また、在学中に利用できる修学資金や奨学金等について、学生と保護者に説明し経済的支援が得られるようにしている。学生相談室が利用しやすいように新入生に対しては、入学時にカウンセラーの存在・役割についてのオリエンテーションを行なっている。チューターの面談時にカウンセリングが必要と判断した事例に対しては、カウンセリングを受けられるよう環境の調整を行なっている。臨地実習に備えた感染予防対策として、健康診断後、ワクチン接種がスムーズに実施できるよう指導・接種確認を行い、1年間で必要な感染対策を終了できている。また、実習1週間前から「健康観察シート」を用いた体調管理を行っている。	【課題】 特になし 【改善対策】
	18	学生の自主的な活動を支援しているか。	3.1	4.0	学生自治会担当教員を中心に学生自治会活動が円滑に実施できるようにサポートしている。また、学校祭準備においては学年間の連携が取りやすいように時間割の工夫をしている。今後更に学生が主体的に考えて活動できるようにサポートの仕方を工夫しながら支援していく。	
	19	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	3.1	4.0	学生が意見を出しやすい関係性やご意見箱を設置するなど、意見を出せる場を設けている。最近では、飲食禁止の演習室などを教員確認のもと飲食して良いことにルール変更をするなど対応可能なことに関しては、学生の意見について柔軟に対応している。また、快適な学生生活が過ごせるように、学生自治会が実施した学生アンケートの結果をもとに学習環境の改善を行っている。	
	20	学生の就学ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.4	4.0	社会人入学者に対しては、教育訓練給付制度が活用できるようにしている。21世紀型能力を有する看護師養成のため、シミュレーション教育やSPを活用した演習などを取り入れ強化している。またICT委員会の設立を行い、iPadを導入。Wi-Fi環境の整備を行い、各学生が問題なく電子機器を使用できるようになっている。教員だけでなく学生のアンケートを行い、ICT環境の改善を行っている。	

区分	番号	評価項目	令和5年度 評価結果	令和6年度 評価結果	評価理由	課題・改善対策
Ⅶ 財政、施設・設備の管理	21	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか。	3.2	3.2	毎年2月に次年度事業計画及び予算計画を立て、理事会で承認を得て執行している。また執行した事業については、5月の理事会で前年度の事業報告と決算報告を行い、運用資金については監事2名による監査を受けている。 経費削減について教員も取り組む姿勢があるが、経費削減策を考えていく上で教職員間の考えをすり合わせる場が少ない状況にある。	【課題】 ・職員間の連絡・決定事項の周知方法 【改善対策】 ・教職員会議の活性化 ・全員に周知、徹底できるように伝達方法を工夫していく
	22	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	3.3	3.0	学校保健・学校安全計画を策定し、防災訓練等の学校安全関連行事、安全教育、施設・設備点検を実施している。 また、大規模地震、風水害発生時等の休校等措置要領を定め、学生必携に掲載し周知し、非常時の連絡訓練を定期的に実施している。 災害時に備えて2日分の非常食や飲料水等を備蓄しているが、職員の中には保管場所を知らない者がいるので、万が一に備えて全職員が理解しておく必要がある。	
	23	施設・設備及び教材が整い、安全・安心が確保されているか。	3.5	4.0	指定規則の備品は年に1回の定数管理を行い、過不足なく揃えている。空調点検や防災扉点検なども定期的に実施している。	
	24	学生の自主的な学修の場を確保しているか。	3.4	4.0	学校は8:00から19:00まで利用でき、自己学習時に利用しやすい演習室が5部屋ある。また、授業のない時間は実習室や空き教室を利用することができる。各階には学生ラウンジがあり、学生同士の歓談や交流、学習会に利用している。 毎週木曜日は市の体育館が利用できるため、身体を動かしたい時の環境は整っている。	
Ⅷ 教職員の能力向上	25	教員は、看護教育力向上に努めているか。	3.2	3.0	R6年度は延べ23人が自己研鑽のため関連する学会・研修会に参加している。また、少数ではあるが研究成果をまとめ学会に発表している。学会・研修終了後は、研修報告書、資料を回覧し、得た学びを共有しているが、伝達講習やタイムリーな意見交換はできていない。 担当する授業については、各領域内で内容の相談を行い実施している。しかし、各領域間の横断的連携に不足がある。	【課題】 ・学習成果のタイムリーな共有 ・各領域間の横断的連携 【改善対策】 ・学会・研修終了後、直近の教員会議内で学習成果を報告、意見交換 ・担当する授業に関連する領域間の事前調整
	26	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	3.2	4.0	平日の勤務時間内に研修を行ったり、毎年研修計画を立てて学べる環境がある。学会参加も行かせてもらえる環境が整っている。	
Ⅸ 広報・地域活動	27	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	3.5	4.0	高校説明会への積極的な参加、HPの画像を毎年更新し、常に新しい情報を提示できるようにしている。また、相模原市さくらまつりや相武台健康まつり、こども祭り等、地域で行われるイベントに参加し学校のPR活動を行っている。上記の他、看護専門雑誌（看護展望）に当校の教育実践の取り組みを掲載、紹介した。学校PRのために様々な機会での広報活動を行っているが、オープンキャンパスや受験者増にはつながらなかったため、今後は従来の広報活動の他、現代の若者のトレンドを視野に入れた広報活動にも取り組んでいく必要がある。	【課題】 ・本校の存在をさらに知ってもらいひいては受験者増につながるような広報活動 【改善対策】 ・従来の広報活動の他、現代の若者のトレンドを視野に入れたPRの仕方を検討する ☞ 図書館雑誌へのバナー広告 ・学校名を入れたノベルティグッズの配付 ・学校公式インスタの開設検討
	28	地域社会の一員として、貢献しているか。	3.4	4.0	90%以上が相模原市へ就職を行っている。学校祭・健康祭り・こども祭りに参加し、地域との交流を図っている。学校祭では、ふるさと祭りなど、地域の祭りと同時開催を行っている。 復職支援活動を当校で実施しており、運営の協力を行っている。	
Ⅹ 法令等の遵守	29	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.6	4.0	関係する法規および看護師養成所指定規則を遵守し運営を行っている。	【課題】 ・ハラスメント事案発生時の学校外の相談窓口確立 【改善対策】 ・他校の情報収集 ・引き続き日本看護学校協議会に相談
	30	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	3.0	3.0	人権侵害（ハラスメント）防止ガイドラインを定め、学生必携に掲載し、学生に周知している。 個々の学生の対応はガイドラインに沿ってできているが、事象発生時の相談窓口が学内教員のためのため、状況によっては相談しにくいケースも考えられる。 外部の相談機関が設けられるように、日本看護学校協議会に相談しているが、解決できていない。	

令和6年度卒業生 「看護に求められる実践能力と卒業時の到達目標」 調査結果

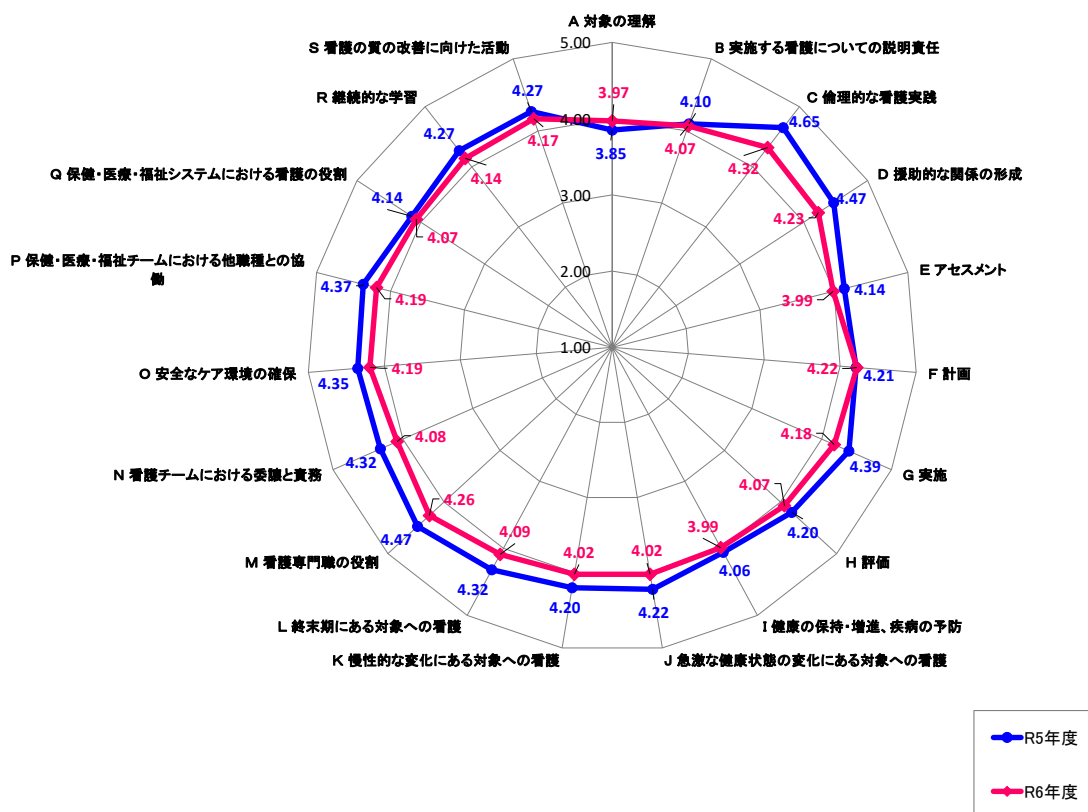
5 大変そう思う 4 まあそう思う 3 どちらともいえない 2 あまり思わない 1 そう思わない										
看護師の 実践能力		構成要素		看護実践能力項目		年度平均値				
						R5年度		R6年度		
Ⅰ群 ヒューマンケ アの基本的な 能力	A 対象の理解	1	人体の構造と機能について理解できる		3.40	3.85		3.74	3.97	
		2	人の誕生から死までの生涯各期の成長、発達、加齢の特徴を理解できる		3.94			3.98		
		3	対象者を身体的、心理的、社会的、文化的側面から理解できる		4.20			4.19		
	5	自らの役割の範囲を認識し説明できる		3.89		3.98				
	6	自らの現在の能力を超えると判断する場合は、適切な人に助言を求めることができる		4.43		4.09				
	8	対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条などを尊重することができる		4.66		4.30				
	9	対象者の尊厳や人権を守り、擁護的立場で行動することの重要性が理解できる		4.63		4.28				
	11	組織の倫理規定、行動規範に従って行動することができる		4.51		4.30				
	12	対象者と自分の境界を尊重しながら援助的関係を維持することができる		4.43		4.23				
	13	対人技法を用いて、対象者と援助的なコミュニケーションをとることができる		4.63		4.30				
	14	対象者に必要な情報を対象者に合わせた方法で提供できる		4.40		4.23				
	15	対象者からの質問・要請に誠実に対応できる		4.43		4.14				
	17	情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出する		4.00		3.98				
	19	根拠に基づいた個別的な看護を計画することができる		4.17		4.16				
	21	計画した看護を安全・安楽・自立に留意し実施することができる		4.34		4.16				
22	看護援助技術を対象者の状態に合わせて適切に実施することができる		4.37		4.12					
23	予測しない状況の変化について指導者又はスタッフに報告することができる		4.57		4.21					
24	実施した看護と対象者の反応を記録することができる		4.29		4.21					
25	予測した成果と照らし合わせて実施した看護の結果を評価することができる		4.20		4.05					
28	環境の変化が健康に及ぼす影響と予防策について理解できる		4.17		4.05					
29	健康増進と健康教育のために必要な資源が理解できる		3.94		3.96					
30	対象者及び家族に合わせて必要な保健指導を実施することができる		3.91		3.93					
31	妊娠、出産、育児に関わる援助の方法が理解できる		4.17		4.00					
33	急激な変化状態にある人に治療が及ぼす影響について理解できる		4.20		3.98					
34	対象者の健康状態や治療を踏まえ、看護の優先順位が理解できる		4.11		4.04					
35	状態の急激な変化に備え、基本的な救命処置の方法が理解できる		4.11		4.00					
36	状態の変化に対処することを理解し、症状の変化について迅速に報告できる		4.14		4.00					
37	合併症予防の療養生活を支援をすることができる		4.31		4.05					
38	日常生活の自立に向けたリハビリテーションを支援することができる		4.43		4.05					
39	対象者の心理を理解し、状況を受けとめられるように支援することができる		4.31		4.07					
41	慢性的経過をたどる人に治療が及ぼす影響について理解できる		4.23		3.95					
42	対象者及び家族が健康障害を受容していく過程を支援できる		4.14		3.96					
43	必要な治療計画を生活の中に取り入れられるよう支援（患者教育）できる		4.14		4.04					
44	必要な治療を継続できるようにソーシャルサポートについて理解できる		4.06		4.02					
45	急性増悪の予防に向けて継続的に観察できる		4.20		4.04					
46	慢性的な健康障害を有しながらの生活の質（QOL）向上に向けて支援できる		4.40		4.14					
48	終末期にある人の治療と苦痛を理解し、緩和方法が理解できる		4.31		4.07					
49	看取りをする家族をチームで支援することの重要性が理解できる		4.31		4.12					
51	看護師としての自らの役割と機能が理解できる		4.43		4.25					
53	看護師が委任した仕事について様々な側面から他者を支援することが理解できる		4.29		4.02					
54	仕事を部分的に他者に委任する場合においても、自らに説明義務や責任があることが理解できる		4.34		4.14					
55	医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解できる		4.40		4.16					
57	治療薬の安全管理について理解できる		4.23		4.18					
58	感染防止の手順を遵守することができる		4.60		4.23					
59	関係法規及び各種ガイドラインに従って行動することができる		4.34		4.19					
61	対象者をとりまく保健・医療・福祉従事者間の協働の必要性について理解できる		4.31		4.18					
62	対象者をとりまくチームメンバー間で報告・連絡・相談等を行うことができる		4.57		4.19					
63	対象者に関するケアについての意思決定は、チームメンバーとともに行うことができる		4.43		4.21					
64	チームメンバーとともに、ケアを評価し、再検討することができる		4.14		4.18					
65	看護を実践する場における組織の機能と役割について理解できる		4.31		4.07					
67	国際的観点から医療・看護の役割が理解できる		4.06		4.02					
68	保健・医療・福祉の動向と課題が理解できる		4.14		4.07					
69	様々な場における保健医療福祉連携について理解できる		4.06		4.05					
71	継続的に自分の能力の維持・向上に努めることができる		4.20		4.14					
73	看護実践に研究成果を活用することの重要性が理解できる		4.23		4.16					
				平均点最大値（緑）	平均点最小値（黄）	平均点4点以上	全体平均	4.26	全体平均	4.12

赤字：前年度より0.3以上低かった項目

青字：前年度より0.3以上高かった項目

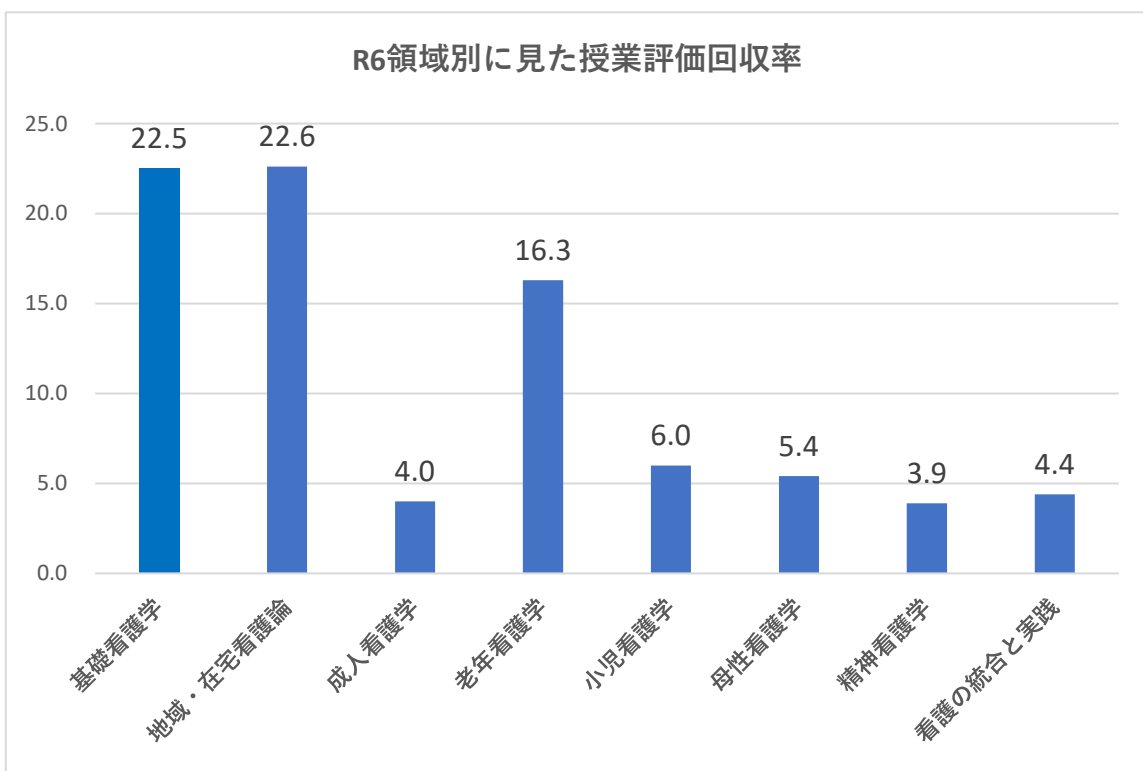
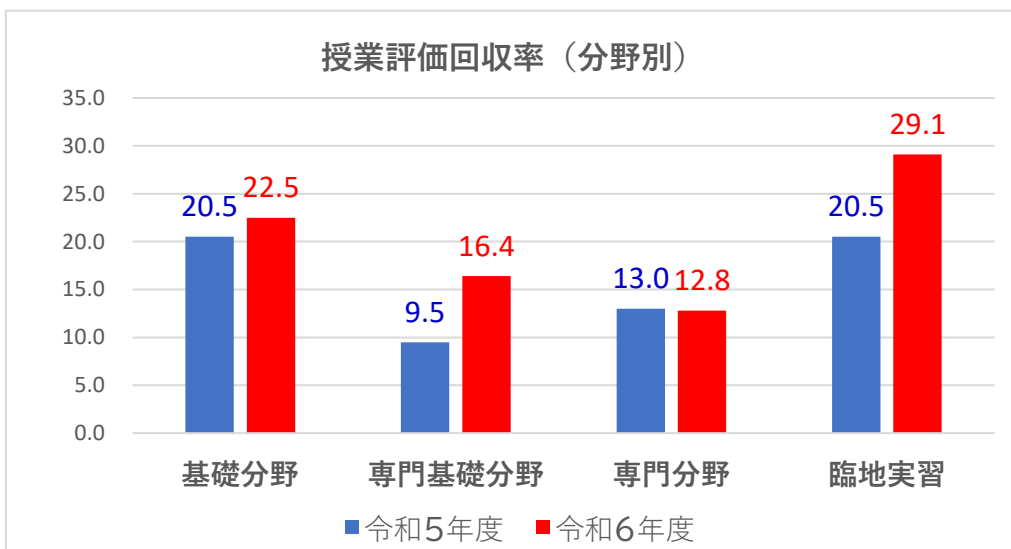
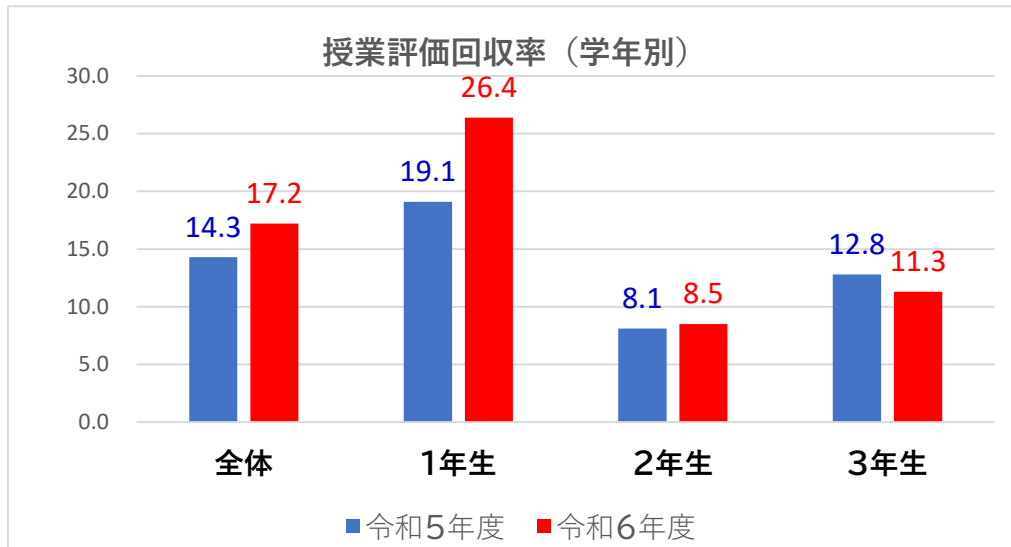
令和6年度 構成要素別 昨年度対比

看護師の実践能力		構成要素		平均 値			
				R5年度		R6年度	
Ⅰ 群	ヒューマンケアの基本的な能力	A	対象の理解	3.85	4.27	3.97	4.15
		B	実施する看護についての説明責任	4.10		4.07	
		C	倫理的な看護実践	4.65		4.32	
		D	援助的な関係の形成	4.47		4.23	
Ⅱ 群	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	E	アセスメント	4.14	4.24	3.99	4.12
		F	計画	4.21		4.22	
		G	実施	4.39		4.18	
		H	評価	4.20		4.07	
Ⅲ 群	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	I	健康の保持・増進、疾病の予防	4.06	4.20	3.99	4.03
		J	急激な健康状態の変化にある対象への看護	4.22		4.02	
		K	慢性的な変化にある対象への看護	4.20		4.02	
		L	終末期にある対象への看護	4.32		4.09	
Ⅳ 群	ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	M	看護専門職の役割	4.47	4.33	4.26	4.16
		N	看護チームにおける委譲と責務	4.32		4.08	
		O	安全なケア環境の確保	4.35		4.19	
		P	保健・医療・福祉チームにおける他職種との協働	4.37		4.19	
		Q	保健・医療・福祉システムにおける看護の役割	4.14		4.07	
Ⅴ 群	専門職者として研鑽し続ける基本能力	R	継続的な学習	4.27	4.27	4.14	4.16
		S	看護の質の改善に向けた活動	4.27		4.17	
				総平均	4.26	総平均	4.12



授業アンケートの回収率

資料3-1



令和6（2024）年度 授業アンケート結果（科目別一覧）

No	分野	科目名	単位	時間数	受講者数	回答数	回収率	科目評価平均	項目平均	No	分野	科目名	単位	時間数	受講者数	回答数	回収率	科目評価平均	項目平均
1	基礎分野	哲学	1	15	84	75	89.3	3.7	3.6	48	専門分野	地域・在宅看護概論	1	15	82	7	8.5	3.6	3.6
2		倫理学	1	15	82	14	17.1	3.7		49		地域で暮らす多様な人の理解	1	15	83	35	42.2	3.9	
3		心理学	1	30	81	22	27.2	3.8		50		地域・在宅における健康状態別看護	1	30	82	5	6.1	3.9	
4		教育学	1	30	80	0	0.0			51		訪問看護技術	1	30	85	61	71.8	3.8	
5		社会学	1	30	82	16	19.5	3.9		52		地域・在宅ケアマネジメント	1	15	82	2	2.4	3.9	3.8
6		文化人類学	1	15	82	11	13.4	3.4		53		地域・在宅看護過程	1	15	82	2	2.4	2.2	
7		人間関係論	1	30	83	12	14.5	3.6		54		成人看護学概論	1	30	82	10	12.2	3.9	
8		英語Ⅰ	1	30	81	15	18.5	3.4		55		セルフマネジメントを必要とする対象の看護	1	30	85	3	3.5	3.5	
9		英語Ⅱ	1	30	84	1	1.2	4.0		56		セルフケア再獲得に向けた対象の看護	1	30	85	1	1.2	4.0	3.2
10		運動実技と理論	1	30	80	18	22.5	3.6		57		クリティカルケアを必要とする対象の看護	1	30	83	1	1.2	4.0	
11		人間工学	1	15	83	40	48.2	3.1		58		エンドオブライフ期にある対象の看護	1	30	83	3	3.6	3.8	
12		情報科学	1	30	81	10	12.3	3.5		59		成人の看護過程	1	30	83	2	2.4	3.7	
13		日本語表現法	1	15	83	19	22.9	3.6		60		老年期を生きる人の理解	1	15	82	38	46.3	3.4	3.0
14		論理学	1	15	83	5	6.0	3.0		61		老年期の暮らしを支える看護	1	30	82	11	13.4	3.4	
15	専門基礎分野	人体の構造と機能Ⅰ	1	30	84	31	36.9	3.6	3.5	62		疾病や障害のある高齢者を支える看護	1	30	84	4	4.8	3.4	
16		人体の構造と機能Ⅱ	1	30	83	22	26.5	3.7		63		老年期にある人の自分らしさを支援する看護	1	30	83	1	1.2	2.7	3.7
17		人体の構造と機能Ⅲ	1	30	82	16	19.5	3.8		64		小児看護学概論	1	30	84	6	7.1	3.5	
18		人体の構造と機能Ⅳ	1	30	83	14	16.9	3.8		65		さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅰ	1	30	83	4	4.8	3.4	
19		生化学	1	15	82	19	23.2	3.8		66		さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅱ	1	30	82	3	3.7	3.1	3.5
20		栄養学	1	30	83	22	26.5	3.8		67		子どもの発達を支える看護の展開	1	15	67	6	9.0	3.6	
21		感染症と微生物	1	30	83	33	39.8	3.7		68		母性看護学概論	1	30	82	3	3.7	3.8	
22		病気の発生とメカニズム	1	30	82	18	22.0	3.7		69		正常な周産期の看護	1	30	83	2	2.4	3.8	
23		疾病治療論Ⅰ	1	30	82	10	12.2	3.6		70		周産期の異常と保健医療システム	1	30	82	1	1.2	3.5	3.6
24		疾病治療論Ⅱ	1	30	82	14	17.1	3.3		71		周産期のウェルネスを支える看護	1	15	68	11	16.2	3.5	
25		疾病治療論Ⅲ	1	30	83	10	12.0	3.6		72		精神看護学概論	1	30	82	11	13.4	3.2	
26		疾病治療論Ⅳ	1	30	82	12	14.6	3.2		73		自分らしさを支える精神看護の特徴	1	30	82	1	1.2	3.8	
27		疾病治療論Ⅴ	1	30	83	2	2.4	3.2		74		精神看護の基本技術	1	30	85	0	0.0		3.8
28		疾病治療論Ⅵ	1	30	83	16	19.3	3.4		75		精神障害を持つ人の看護の展開	1	15	82	1	1.2	3.4	
29		薬理学	1	30	82	12	14.6	3.6		76		看護の探究	1	15	68	4	5.9	3.3	
30		臨床心理学	1	15	68	4	5.9	3.2		77		医療安全	1	15	68	4	5.9	3.7	
31		総合医療論	1	15	83	24	28.9	3.5		78	臨地実習	災害看護と国際支援	1	30	69	2	2.9	3.5	3.8
32		社会福祉論	1	30	84	1	1.2	3.0		79		看護管理	1	15	68	4	5.9	3.3	
33		公衆衛生学	1	15	82	1	1.2	3.5		80		統合演習	1	15	70	1	1.4	4.0	
34		関係法規	1	15	68	1	1.5	4.0		81		基礎看護学実習Ⅰ	1	30	82	36	43.9	3.9	
35	専門分野	医療事故と看護	1	15	68	2	2.9	2.7	3.6	82	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	3	90	82	43	52.4	3.8	3.8
36		チーム医療論	1	15	68	5	7.4	3.5		84		老年看護学実習	2	90	79	66	83.5	3.8	
37		看護学概論	1	30	83	22	26.5	3.6		85		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90	82	12	14.6	3.9	
38		看護の基本となる技術Ⅰ（関係構築・安全）	1	30	83	40	48.2	3.9		86		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90	80	7	8.8	3.9	
39		看護の基本となる技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1	30	82	13	15.9	3.7		83		地域・在宅看護論実習	2	90	70	14	20.0	3.9	
40		看護の基本となる技術Ⅲ（活動と休息、環境）	1	30	83	51	61.4	3.9		87		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90	69	15	21.7	3.5	
41		看護の基本となる技術Ⅳ（看護過程）	1	30	82	10	12.2	3.8		88		成人・老年看護学実習Ⅳ	2	90	69	15	21.7	3.7	
42		生活を整える技術Ⅰ（食事・排泄）	1	30	82	9	11.0	3.9		89		小児看護学実習	2	90	69	11	15.9	3.6	
43		生活を整える技術Ⅱ（安楽・清潔）	1	30	83	35	42.2	3.8		90		母性看護学実習	2	90	68	16	23.5	3.8	
44		診療に伴う技術（与薬・検査）	1	30	82	10	12.2	3.9		91		精神看護学実習	2	90	69	12	17.4	4.0	
45		看護理論	1	15	83	0	0.0			92		看護の統合実習	2	90	70	12	17.1	3.8	
46		看護研究	1	15	83	6	7.2	2.3											
47		症状に応じた看護技術	1	30	82	8	9.8	3.4											

4 そう思う 3 ややそう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない

令和5（2023）年度 授業アンケート結果（科目別一覧）

No	分野	科目名	単位	時間数	受講者数	回答数	回収率	科目評価平均	項目平均	No	分野	科目名	単位	時間数	受講者数	回答数	回収率	科目評価平均	項目平均	
1	基礎分野	哲学	1	15	80	72	90.0	3.6	3.5	47	専門分野	地域・在宅看護概論	1	15	84	2	2.4	4.0	3.9	
2		倫理学	1	15	84	9	10.7	3.9		48		地域で暮らす多様な人の理解	1	15	85	56	65.9	3.8		
3		心理学	1	30	79	12	15.2	3.7		49		地域・在宅における健康状態別看護	1	30	72	1	1.4	4.0		
4		教育学	1	30	69	3	4.3	3.7		50		訪問看護技術	1	30	70	20	28.6	3.8		
5		社会学	1	30	82	38	46.3	3.7		51		地域・在宅ケアマネジメント	1	15	70	25	35.7	3.7		
6		文化人類学	1	15	82	6	7.3	3.5		52		地域・在宅看護過程	1	15	70	12	17.1	3.8	3.5	
7		人間関係論	1	30	84	4	4.8	3.7		53		成人看護学概論	1	30	84	7	8.3	3.9		
8		英語Ⅰ	1	30	77	10	13.0	2.9		54		セルフマネジメントを必要とする対象の看護	1	30	70	4	5.7	3.8		
9		英語Ⅱ	1	30	70	4	5.7	3.7		55		セルフケア再獲得に向けた対象の看護	1	30	69	2	2.9	3.5		
10		運動実技と理論	1	30	79	7	8.9	3.9		56		クリティカルケアを必要とする対象の看護	1	30	70	4	5.7	3.3		
11		人間工学	1	15	82	42	51.2	3.3		57		エンドオブライフ期にある対象の看護	1	30	70	2	2.9	3.5	3.3	
12		情報科学	1	30	80	8	10.0	3.3		58		成人の看護過程	1	30	68	2	2.9	3.2		
13		日本語表現法	1	15	82	3	3.7	3.2		59		老年期を生きる人の理解	1	15	85	13	15.3	3.5		3.3
14		論理学	1	15	71	8	11.3	3.5		60		老年期の暮らしを支える看護	1	30	83	2	2.4	3.6		
15	専門基礎分野	人体の構造と機能Ⅰ	1	30	85	14	16.5	3.5	3.3	61	専門分野	疾病や障害のある高齢者を支える看護	1	30	69	1	1.4	3.2	3.4	
16		人体の構造と機能Ⅱ	1	30	85	6	7.1	3.3		62		老年期にある人の自分らしさを支援する看護	1	30	70	5	7.1	3.0		
17		人体の構造と機能Ⅲ	1	30	85	3	3.5	3.0		63		小児看護学概論	1	30	71	8	11.3	3.6	3.4	
18		人体の構造と機能Ⅳ	1	30	83	2	2.4	3.9		64		さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅰ	1	30	71	6	8.5	3.5		
19		生化学	1	15	84	5	6.0	3.8		65		さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅱ	1	30	70	3	4.3	3.2	3.7	
20		栄養学	1	30	84	10	11.9	3.5		66		母性看護学概論	1	30	72	21	29.2	3.6		
21		感染症と微生物	1	30	84	28	33.3	3.5		67		正常な周産期の看護	1	30	70	5	7.1	3.5	3.6	
22		病気の発生とメカニズム	1	30	85	9	10.6	3.3		68		周産期の異常と保健医療システム	1	30	70	2	2.9	4.0		
23		疾病治療論Ⅰ	1	30	84	4	4.8	2.9		69		精神看護学概論	1	30	83	3	3.6	3.6	3.6	
24		疾病治療論Ⅱ	1	30	82	3	3.7	2.5		70		自分らしさを支える精神看護の特徴	1	30	70	3	4.3	3.2		
25		疾病治療論Ⅲ	1	30	84	5	6.0	3.1		71		精神看護の基本技術	1	30	69	1	1.4	4.0		
26		疾病治療論Ⅳ	1	30	84	5	6.0	2.6		72		精神障害を持つ人の看護の展開	1	15	70	3	4.3	3.4		
27		疾病治療論Ⅴ	1	30	69	5	7.2	3.6		73	専Ⅰ 看護倫理	1	15	79	4	5.1	2.7	2.7	2.7	
28		疾病治療論Ⅵ	1	30	71	4	5.6	2.9		74	専Ⅱ 母性看護援助論Ⅲ	1	15	79	4	5.1	3.8	3.8	3.8	
29		臨床心理学	1	15	80	7	8.8	3.1		75	統合分野	在宅看護援助論Ⅲ	1	15	78	9	11.5	3.9	3.8	3.8
30		薬理学	1	30	84	5	6.0	3.0		76		看護の探究	1	15	78	13	16.7	3.4		
31		総合医療論	1	15	83	33	39.8	3.3		77		医療安全	1	15	80	35	43.8	3.7		
32		社会福祉論	1	30	71	1	1.4	4.0		78		災害看護と国際支援	1	30	78	1	1.3	4.0		
33		保健医療と法律	1	15	78	1	1.3	4.0		79		看護管理	1	15	79	1	1.3	4.0		
34		公衆衛生学	1	15	70	2	2.9	3.2		80		臨床看護技術演習	1	15	81	6	7.4	3.8		
35		チーム医療論	1	15	82	9	11.0	3.9		81	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	83	63	75.9	3.9	3.8	3.8
36	専門分野	看護学概論	1	30	84	6	7.1	3.7		82		基礎看護学実習Ⅱ	3	90	80	18	22.5	3.8		
37		看護の基本となる技術Ⅰ（関係構築・安全）	1	30	84	25	29.8	3.9		83		老年看護学実習	2	90	72	6	8.3	3.9		
38		看護の基本となる技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1	30	85	6	7.1	3.8		84		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90	67	7	10.4	3.5		
39		看護の基本となる技術Ⅲ（活動と休息、環境）	1	30	83	16	19.3	3.8		85		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90	68	3	4.4	4.0		
40		看護の基本となる技術Ⅳ（看護過程）	1	30	84	16	19.0	3.6		86		成人看護学実習Ⅱ	2	90	82	19	23.2	3.6		
41		生活を整える技術Ⅰ（食事・排泄）	1	30	83	2	2.4	3.8		87		成人看護学実習Ⅲ	2	90	80	13	16.3	3.8		
42		生活を整える技術Ⅱ（安楽・清潔）	1	30	85	67	78.8	3.9		88		小児看護学実習	2	90	82	17	20.7	3.5		
43		診療に伴う技術（与薬・検査）	1	30	82	6	7.3	3.7		89		母性看護学実習	2	90	80	8	10.0	3.7		
44		看護理論	1	15	70	3	4.3	3.1		90		精神看護学実習	2	90	80	12	15.0	4.0		
45		看護研究	1	15	70	5	7.1	3.3		91		在宅看護論実習	2	90	77	17	22.1	3.9		
46		症状に応じた看護技術	1	30	72	6	8.3	3.7		92		統合実習	2	90	79	8	10.1	3.6		

令和6年度 ディプロマ・ポリシー到達状況

資料4

		項 目	令和5年度		令和6年度	
気づく力	1	人々の心身の健康と生活への関心がある	4.5	4.4	4.3	4.3
	2	異なる文化や価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重できる	4.5		4.4	
	3	対象の思いや苦痛、心身の細かな変化に気づくことができる	4.5		4.3	
	4	地域での暮らしに目を向けることができる	4.4		4.4	
	5	国内外の社会の変化や保健医療福祉の動向に関心を持ち、医療や看護のニーズに気づくことができる	4.2		3.9	
思考する力	6	専門知識をもとに情報の収集や分析ができる	4.3	4.4	4.1	4.3
	7	健康上のニーズの解決に向けて、根拠を持った解決策が立案できる	4.4		4.3	
	8	自らの実践と対象の反応をもとに、適切な評価と今後の課題が明確にできる	4.4		4.2	
	9	専門的知識に基づき、倫理的な判断ができる	4.5		4.3	
	10	地域で暮らしていくために必要な支援が考えられる	4.4		4.4	
実践する力	11	自分の思いを他者にわかりやすく、アサーティブに伝えられる	4.3	4.4	4.0	4.3
	12	対象への気遣いや配慮を行い、相互的な関係性を築くことができる	4.5		4.4	
	13	その人らしい自立した生活に向けて、安全・安楽を考えた援助ができる	4.4		4.5	
	14	自己の心身の健康管理を行い、健康上の問題を解決するための看護が実践できる	4.3		4.3	
	15	他の関係職種との情報交換を行い、連携することができる	4.4		4.3	
	16	地域社会の中で、健康課題の解決に向けて保健医療福祉チームの一員として協働できる	4.4		4.2	
成長し続ける力	17	他の人達と相互に学び合い、共に成長しようとする姿勢がある	4.5	4.4	4.3	4.3
	18	課題の解決に向けて、根気よく取り組むことができる	4.4		4.3	
	19	専門職業人としての自覚と責任を持ち、主体的に学び続けることができる	4.4		4.3	
	20	地域での様々な状況に柔軟に対応しようとする姿勢がある	4.3		4.2	
	21	より良い看護の実践に向けて、チャレンジする姿勢がある	4.6		4.2	

大変そう思う	5
まあそう思う	4
どちらともいえない	3
あまり思わない	2

学校関係者評価委員会における委員からの意見

1 自己点検・自己評価について

- 教員による評価の目線をあわせるため、個人評価からグループによる合議制の評価に手法を変更したことにより、評価点が全体的に上昇し、適正な評価がなされている。
- 学校運営における「組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか」については、他よりもポイントが低く、改善の具体策について一人ひとりができることを考えていくことが必要。
- 学生確保に関して、本校のホームページはしっかりと作られているが、今はSNS、特にインスタグラムが主流であり、スマートフォンで閲覧できるコンテンツの作成が有効ではないか。病院でも募集にラインなどのアプリを活用している。
- コンプライアンスについては、学校でも認識している通り、ハラスメントの外部相談窓口を早急に検討すべきである。

2 学生からの評価について

- 授業アンケートの回答率が低く、回答結果の信頼性が担保できない。評価をする時期や、回答時間の確保、内容の見直し、回答の動機付け、学生へのフィードバックなど回答率を上げる工夫が必要。
- 昨年度に比べて少しではあるが、全体的に学生評価が下がっている。評価する学生の特性によることもあると思うが、分析を行い、必要があれば改善を。